

【川俣町】
校務 DX 計画

1 関係団体間の連絡・通知方法の見直し

福島県で運用されている汎用クラウドプラットフォームである FCS（ふくしまクラウドサービス）のデータ共有機能等を活用し、町内学校間または教育委員会と学校間における発出文書削減による事務負担の軽減を図る。

2 次世代型校務支援システムの導入検討

川俣町では令和 4 年度より福島県推奨の校務支援システムを導入している。福島県において、令和 7 年度までに「パブリッククラウド上で運用できる次世代校務支援システム」を県内自治体とともに導入するための協議を開始することから、県や他自治体の動向を注視し、導入を検討する。

3 各種システムへの手入力作業の見直し

校務支援システムをはじめとする各種システムへの手入力作業について、学校へ配置している ICT 支援員から業務改善策を提案することにより教職員の業務負担軽減を図る。

また、複数のシステム間のデータを連携し、名簿情報等を共有することにより、手入力作業を削減するための方法を検討する。